

【2024年度 法政大学連帯社会インスティテュート公開講座 第3弾】

社会的連帯経済をめぐる 構想と挑戦 – 徹底“対論”

オンライン開講
参加費無料

1 鼎談：社会正義とSSEが拓く未来

5月11日(土) 13:00~16:40

白川真澄 (ピープルズ・プラン研究所)
田中夏子 (長野県高齢協副理事長/農園主)
廣田ミゲル裕之 (法政大学連携准教授)

資本主義が生み出す諸課題の原因はどこにあり、私たちは何をなすべきか。長く社会運動の前線で思考し続けてきた碩学の著書『脱成長のポスト資本主義』に田中夏子/廣田裕之の二人のSSE研究者が挑む。

2 特別対談：3年目の公開講座とILO

5月18日(土) 13:00~16:40

高崎真一 (ILO駐日代表)
柳澤敏勝 (明治大学名誉教授)

SSEに新しい展開を促したILO。その駐日事務所から高崎代表を迎える特別対談。本年度は協同組合研究者であるとともに、大学では長年企業論を教えてきた柳澤敏勝氏が対論者となり、「そもそも企業とは」を含め、SSEの主体に求められる姿勢と、主体となるための条件について語り合う。

3 グローバルな連帯を構築する

6月1日(土) 13:00~16:40

岡野内正 (法政大学社会学部教授)
上村雄彦 (横浜市立大学教授)

社会連帯の新しい動きとしてベーシックインカムが若い世代を中心に人びとを惹きつけている。岡野内氏は、そのなかでもグローバル・ベーシック・インカムという独特の運動を提唱している人物である。対論者である上村氏はグローバル・タックスというこちらも国際移動や巨大多国籍企業などに適正な課税を行う議論を展開している。両者の対論から新しいグローバルな連帯を考える。

4 SSEとウェル・ビーイング

6月15日(土) 13:00~16:40

藤田雅美 (医師・国立国際医療研究センター)
仁科伸子 (熊本学園大学教授)

藤田医師はWHOなどに籍を置きながら、海外調査を中心に公衆衛生や移民の健康問題などに携わってきた。仁科氏はフルブライト奨学生としてシカゴ大学でコミュニティにおける住民のエンパワメントを学び、社会福祉学の研究を続けている。人びとの健康や豊かさを見続けてきたふたりが、SSEとウェル・ビーイングという2つのキーワードで合流する。

5 就労支援とディーセント・ワーク

7月13日(土) 13:00~16:40

津富宏 (立教大学特任教授)
西野ゆかり (日本フリーランスリーグ理事長)

若者就労支援の分野で「静岡方式」という伴走型の新しい取組をはじめたことで有名な津富氏。もう一人は、連合の初代Wor-Qサポート局長として「曖昧な雇用」にある労働者、ギグワーカーたちの支援を推進してきた西野氏。

津富氏は4月より静岡を離れ石巻で市民活動に注力しながら新座の立教大学で教鞭をとられ、西野氏もまた4月に日本フリーランスリーグという新しい組織を立ち上げた。お二人の対論を通して、SSE運動の新しい萌芽を体感する最終回。

社会的連帯経済(SSE)は、協同組合や共済団体などが中心となって多様な経済主体と連携しつつ新しい持続可能な経済社会の構築を目指す国際的な連帯運動です。2022・2023年度に続き、法政大学連帯社会インスティテュート協同組合プログラムでは、SSEについて学び、国内での実践を広げるためのオムニバス講義を開催します。今回は5日間の開催となり、学外者はオンラインで参加できます。皆様のご参加をお待ちしております。

全回あるいはご興味のある単回でも興味がありましたら、自由にご参加ください。参加にあたり、以下のWEBフォームより事前申込みが必要となります。お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

<https://ws.formzu.net/dist/S20101802/>



QRコードからも申込可能です。